

チモール・レステの情報

図書館

国立図書館：建設中

公文書館 (<https://timorarchives.wordpress.com/2016/04/08/timors-national-archive-advancing/>)

ポルトガル語の公文書がある。検索はマニュアルでカタログ未整理。インドネシア語のできるスタッフがいる。

チモール・レステ国立大学図書館

Helen Hill (元ビクトリア大学教授) がいて、外国人研究員との橋渡し役。

JICA の支援で工学部の建物が作られており、Engineering の Journal も刊行され始めた。

シャナナ・グスマン・リーディング・ルーム (Xianana Gusmao Reading Room)
(<http://xananagusmaoreadingroom.com/en/>)

英語本もある。オンラインカタログもあるのかもしれないが、アクセス不可能。

Indonesian Cultural Center

インドネシア語の本がある図書室もある。

Resistance Museum

ポルトガル政府の支援で作られたインドネシアへの抵抗運動に関する博物館。インドネシア人にとっては受け入れがたい。

本屋

Livrose&Companhia (<https://www.facebook.com/LivroseCompanhiaTimor/>)

チモール・プラザにある

Cf. 出版状況はあまりよくない。国語がポルトガル語とテトゥン語のため、法令はポルトガル語とテトゥン語。しかし、テトゥン語は語彙不足。ポルトガル語ができない若い世代もいるので、国会では同時通訳が行われている。

新聞

The Dili Weekly (<http://www.thediliweekly.com/en/>)

英語とテトゥン語

Tempo Timur (<http://www.tempotimor.com>)

英語とテトゥン語

Sapo (<http://www.sapo.tl>)

ポルトガル語とテトゥン語。オンライン版

雑誌、レポート

シンクタンク・La'o Hamtuk (<http://www.laohamutuk.org>)や Yayasan Hak の出すレポート

出版状況、国家による監視、検閲

独立後、出版は基本的に自由。自由すぎて、オンラインでもフェイクニュースがあるがそこまで深刻な問題になっていない。また、チェックする機関が存在しない。

コミュニティラジオはたくさんある。地方語で行われている。

TVTL という国営放送があり、メインがテトゥン語で、ときにポルトガル語が使われている。8時か9時には放映終了。また、内容がつまらない。そのため、圧倒的にインドネシアのドラマを見ている家庭が多い。